

令和 4 年度

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里 やまぶき棟		
所在地	〒023-1762 岩手県奥州市江刺藤里字平37-2		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月6日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふじの里では、私たちは”あふれる想いであなたに寄り添い笑顔が喜びとなる暮らしを想像します”という理念のもと、コロナ禍の中ではあるが、施設内にて季節の行事を実施。家族との繋がりの維持とし、LINEを用いてご家族との面会の実施。 地域との繋がりの維持として藤里地区文化祭への作品展示での参加している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、民家が点在する江刺藤里地区で認知症対応型デイサービスを併設する2ユニットの施設である。利用者のために、金ヶ崎町の千貫石温泉から1日おきに源泉を運び大浴場で温泉気分を提供し、3度の食事と午後のおやつはすべて職員の手作りとし、栄養士の献立を基本にしながら、畑で収穫した野菜や差し入れを彩に添えている。地域力のある地域にあって、コロナ禍前の文化祭には、作品展示のほか利用者と職員が一緒にステージ発表に出演し、また、昨年度閉校した中学校からは福祉体験で約20名の生徒が来所していた。今年度で閉校となる小学校へは、これまでの交流事業のお礼として、利用者が作成した雑巾を寄贈し、来年度以降の「放課後児童クラブ」との交流を視野に入れている。管理者同士のチームワークも良好で、週1回の昼礼を活用した職員との情報交換や理念の共有強化等、今後の事業所運営の向上が期待される。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、「ありふれる想いで、あなたに寄り添う」を各ユニットで掲示し、管理者・主任を中心理念を心がけている。また、利用者の支援に関しても、理念に基づく対応が出来るよう、管理者・主任・職員が話し合い実践している。	法人の経営理念と10の心得を基に、グループホームでは「明るく、楽しく、みんな仲良く」を事業所の基本理念とし、各ユニットに大きな文字で掲示している。今年度上期は月1回の職員ミーティング時に10の心得を確認し合い、下期には各ユニット毎に週初めに開催する昼礼を利用し、浸透の強化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	藤里地区の文化祭への作品展示での参加をしている。	町内会には加入していないが、区長の計らいで広報や駐在所だより、学校だよりが届けられている。また、近隣の農家の方から、季節の野菜の差入れもある。コロナ禍以前は、小中学校との交流事業を行ったり、文化祭では利用者と職員で「北国の春体操」も披露していた。少子化に伴い、今年度で閉校となる小学校には、これまでの感謝の気持ちを込めて利用者が作った雑巾を管理者2名で届けている。管理者は、来年度以降の「放課後児童クラブ」との交流も視野に入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が中心となり、グループホームについての説明を行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年の運営推進会議は、コロナウイルス感染防止の為、書類にて利用者の入退居状況、活動報告を行っている。助言等ある場合は返信用の書類にてFAXでお願いしている。	昨年度同様、コロナ禍のため書面会議の方式で開催している。委員は、地区振興会長、行政区長、駐在所長、市役所職員で、利用者家族や利用者にも声を掛けている。利用者家族は、毎年ふじ棟、やまぶき棟の交互に依頼し、殆どの家族が快く引き受けている。	会議開催で「事業所を広く知っていただく、地域の情報を教えていただく、地域の方々に見守っていただく」ことを目指す上で、地域の情報に長けている民生児童委員も委嘱することについて検討されることが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年の運営推進会議は、コロナウイルス感染防止の為、書類にて地域包括支援センターの職員に対し、入居者の状況並びに入居者の状況について報告し、助言を頂いている。	運営推進会議委員の総合支所の健康福祉グループ長は、会議資料送付後、資料内容への意見や新たな議題の提案等を毎回FAXで送ってくれている。要介護認定申請や事故報告等も総合支所の担当窓口に出向いて提出しており、担当者とは顔の見える関係が出来ている。介護相談員の来所や生活保護担当者との電話連絡等は、その都度対応している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急、やむを得ない場合を除き、身体拘束は行わないと、入居契約締結時に説明している。	昨年度から、身体拘束廃止と高齢者虐待防止のため、法人内に権利擁護委員会を設置し管理者も委員となっている。昨年暮れに実施した職員アンケートで、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待等が発生するリスクが潜んでいることを確認したため、その防止に向けた注意喚起や研修を行っている。研修は、全職員の受講が可能となるよう約1週間をかけて実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の権利擁護委員会にて、職員アンケートを行い、現在の対応方法などを分析し、啓蒙活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度、高齢者権利擁護推進委員養成研修受講、権利擁護についての知識を深め、成年後見制度についても必要と感ずる場合は、各担当と話し合い進めて行こうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安をあいての立場で考えるよう接し、丁寧に説明をするよう心掛けると共に、意向確認書にて、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し意見がある場合は記入し入れてもらうよう話している。	居室担当が作成して毎月家族に送付する写真付きのふじの里便りは家族から好評で、継続発行の要望も出されている。家族から事業所運営に関しての意見は殆どなく、利用者の身近な要望や支援方法の希望には、その都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者が、意識的に職員との会話をしている。ユニットミーティングにおいても、改善提案などの話し合いの機会を作っている。	会社の代表者と事業部長、管理者が頻繁に意見交換し、職員の意見・提案を運営に活かしている。職員の提案で、シフトの時間変更や車椅子対応が増えたことにより車いすを各ユニット1台づつ購入したりするなど、上層部へ提案し易い関係にある。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より、人事考課プロジェクト発足し、管理職だけでなく、職員も入りし進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮と共に、介護支援専門員の受験、介護福祉士の受験、実践者研修の受講予定者がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の会員であり、他施設研修も考えてはいるが今年はコロナウイルスの為控えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居内定した場合、本人様と面会し、ホームにてどのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明を心掛けている。不安に思った所があった場合いつでも相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からホームの入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様との意向を伺い、質問に応じ納得して頂けよう努めている。利用前であっても都度相談に応じられる事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様との面会を通し、今一番困っている事、一番したい事を明確にして、どのサービスが一番良いか話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員にて、食器拭き、おしぼり作り、洗濯物干し、洗濯物たたみを一緒にしていただいている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月の便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合うことが出来る様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、面会等の問い合わせに対し、LINE面会を提案している。	コロナ禍で家族との面会も出来なくなり、馴染みの関係継続は難しくなっているが、2ヵ月に1回来訪する理容師や、訪問歯科診療の歯科医が馴染みとなっている。ドライブを兼ね「ふるさと訪問」をしたり、家族との連絡に事業所の電話の使用を奨めるなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で隣同士に座ってもらったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際も、ご家族様、介護支援専門員と管理者にて、今後について話し合いを行い、いつでも相談に応じられる事を説明している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者ごとに担当職員を決め、入居者と話す場を設けている。また、一緒に制作する時間を取っている。	ふじ棟には4名の難聴者がいるが、耳元でゆっくり話すことでどうにか意思の確認をしている。やまぶき棟では、3名の利用者が体調や気分で波があるため、意志確認が円滑に出来ない時もあるが、表情や仕草等から推測して対応している。起床時、何度か声がけしても起きない場合は、利用者のペースで過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するよう努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録にて、バイタル・食事摂取量・レク・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとに、課題分析表にてカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、管理者、介護支援専門員を加えてカンファレンスを行い、より入居者様の意向を踏まえた生活ニーズとその支援内容を決定している。	入居前の事前調査には、介護支援専門員、事業部長、管理者のいずれか1名が行い、入居後初回の計画期間は1ヵ月としている。その後、概ね3ヵ月毎の見直しとし、居室担当が行う達成目標を主としたモニタリングを参考に、介護支援専門員と管理者、居室担当で計画原案を検討している。居室担当は利用者、家族の意向確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、経過記録を元にモニタリングをし、実施記録にて職員間で情報を共有しながら実績、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせたケアに必要な事項や福祉用具の検討を常にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小学校が今年度で閉校となるので、これまでの交流に対する感謝を伝える為、雑巾作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者様・ご家族様の医療に関するニーズを伺い、かかりつけ医を決めている。	入居前のかかりつけ医の受診や眼科、耳鼻科等の専門医への受診は家族対応としている。協力医療機関受診時は事業所が対応しており、入居時にかかりつけ医を協力医療機関に変更を希望される場合が殆どである。入居前からのかかりつけ医を利用している方は、やまぶき棟の1名だけである。また、義歯が合わない場合には、協力歯科医院の医師に訪問歯科診療を依頼している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、体調など状況に応じ都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めるとともに、退院時カンファレンスにて、スムーズにホームに戻って来られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び状態の変化がある場合、ご家族様に、入居者様の終末期における意向を確認している。 看取りを行ったケースがあり、ご家族様と協力医とホームにて対応を話し合い、全職員間で共有している。 現在、入居されてる利用者の中にも、ホームでと希望されている方もいる。	入居時に重症化や看取り対応についての説明を行ない、意向を確認している。協力医療機関の医師の支援を受けて看取りを行った利用者が、これまで1名いる。現在、状態が重度化してきている利用者はいないが、夜間帯でも、万が一の場合は両ユニットの夜勤者同士で支援出来る体制にある。緊急時には、管理者や業務部長、代表者に電話連絡を入れ、指示を仰ぐこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにのっとり、変化が見られた場合は社長及び管理者へ連絡し指示を仰いでいる。 緊急性がある場合は、救急へ連絡をすることとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、夜間訓練を実施しているが、避難の態勢については一部地域住民の協力は得られるが、現実的には近隣住民が仕事の為留守が多く難しいことも考えられ、警備会社と契約し、火災時の対応をお願いしている。	7月と11月に夜間想定(日中実施)と日中想定の方針訓練を消防署立会いの下で実施し、「職員の無駄な動き、ドアの開け閉め等」に関して指導があり、事業所内で次に向けた課題としている。1人介護体制となる夜勤者は、警備会社へのコールボタンを保持し、万が一に備えている。11月の訓練時には、カセットコンロを使って停電時を想定した食事を準備し、昼食として提供した。ハザードマップ上の危険は無く、玄関側もユニット非常口側も避難路は整備されている。	夜勤者だけが勤務する時間帯の災害を想定した訓練を全職員が経験し、課題を共有して必要な改善を図られるとともに、地域住民と合同の訓練を計画されることを期待します。

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には耳元で話す。動作で推し量る等本人の意向の把握に努めている。また失禁等での失敗もさり気なくカバーし、誇りを損ねないようにしている。	入浴や排泄等のデリケートな介護時には、出来るだけ異性介助は避け、柔軟に職員を交代するよう努めている。夜勤帯を含め排泄介助では対応が難しい場合もある。社長歴のある女性利用者の苦労話を1時間程度傾聴することもある。居室入室前のノックも行っているが、繁忙時の改善の余地もあるとしている。午前の入浴習慣の無い利用者には、午後にユニットの浴室で入浴している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を日常会話の中から引き出せるよう心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声がけにて確認し、本人の自発性を優先している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事の中で、いつもとは違うメニューを職員内で話し合い提供している。また日常では、茶碗洗い、茶碗拭き等出来る事に取り組んでもらっている。	食事は午後に提供するおやつも含めて全て手作りとし、家族からも感謝されている。献立は法人内の栄養士が作ったものを基本とし、夏場には畑で採れたミニトマトやオクラ等を添えている。また両ユニットには調理師の有資格者が1名づついる他、やまぶき棟の管理者は栄養士資格もあり、食事のバランスを考えたメニューの提供に留まらず、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況も把握している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事のバランスを考えたメニューを提供し、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。 食形態に関しても、利用者様に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、適切な時間に声掛けでの確認やトイレへ行けない利用者へは時間で確認している。	身体状況が低下していても、出来るだけトイレでの排泄を目指した支援を心掛けている。骨折が治癒して退院してきた利用者も、立位がとれる状態になった時点で、オムツ使用からリハビリパンツに切替えて、トイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間頻尿の利用者でも、居室にはポータブルトイレは置かず、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションを通して適度な運動量と水分補給を促し摂取するなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望に関しては、朝の会で入居者の意向を確認し、入浴してもらっている。	一人週3回、午前の入浴としているが、入浴希望や時間については柔軟に対応している。金ヶ崎町の千貫石温泉からお湯を1日おきにローリー車で運び、グループホームの入居者でも希望者にはデイサービスの大浴場の利用も行っている。また、同性介助希望の方にも、意向に沿って進めている。浴室の前には暖簾がさがり、入浴介助の際に職員は、前に鳴子、後ろに温泉マークが描かれたTシャツを着て、楽しんでもらうよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝など、利用者様の訴えには柔軟に対応している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。確認表を作成しセット者と与薬者をわけ誤薬の無いように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭にて季節の野菜を植え、成長過程を見たり収穫を通じ楽しみを感じられるよう行っている。気分転換にドライブなど外に出る機会も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会制限中ではあるが、特例として法事(3名)への参列もあった。	コロナ禍で外出支援が難しい状況にあるが、利用者の希望で胆沢ダムに紅葉見学に出かけたり、種山高原等にドライブに出かけている。春から秋口までの天気の良い日の散歩は、周辺の景色や花を愛でながら事業所施設を1周している。春に桜がきれいに咲く隣家があったり、秋には敷地内で自然に育ったアケビを収穫する楽しみもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則利用者の金銭所持はなくホームで預かり金として管理している。例年であれば買い物会などの行事を企画し金額を決めて購入できる場を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールに、季節の花を飾り、また利用者と共同で作った壁飾り等掲示している。床暖、空気清浄機で適切な環境を整備している。「トイレ」の表示は利用者の目線に合わせ低い位置に貼っている。 車いすやシルバーカーを使用している利用者様もあり、動線も意識している。	共用ホールは、中庭を挟み、ガラス越しに両ユニットのから互いに見える位置に配置され、利用者同士で手を振ったりの交流が日常的に行われている。施設中央にあるデイサービスから入る各ユニットの入口には、ドアが設置あり、自由な出入りには制約はあるものの、現下の感染対策には役立っている。ホールのテーブルには、職員持ち寄りの鉢植えが飾られている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、趣味が合う同士や、なじみの利用者同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。	利用者の身体状態に合わせ、低めの木製タイプベッドとギャッチベッドの2種類が設置されている。テレビ、使い慣れた背もたれが傾斜している椅子、拘りのある家具のほか、ベッドで一緒に寝るおしゃべり人形や位牌、仏壇を持参されている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前等の表示することで迷わないよう配慮している。		